

# 海 (かいし) 市

No. 12

## ● 詩

02 横山 仁 生活の柄 7

04 前田 勉 句 点

## ● エッセイ

08 片津 森 初めての奥穂高岳 (1)

13 佐藤ただし 水田とツバメ (10)

16 横山 仁 雑記 (12)

生活の柄 7

横山 仁

ねえ

わたしたち きのう

何はなしたんだっけ？

遠くから

近くから

風にとけこんだ

声がまとわりついてくる

きのう

だれともはなしていないのに

どこへもいつていないのに

摩滅した鉛活字の

消えかかったシナリオの

思い出

わたしたち

あすは

何を：

## 句点

前田 勉

ぼっん

白紙の上に  
句点ができた

幾度となく

見て

ずっと

記すことをしてきた  
小さな記号であつたはずの  
。

まるくなぞって  
始点へ戻ってしまった  
ただそれだけなのに  
始点は終点でもあることを  
示していた

夢の中のようで

もがいても

言葉は音を忘れ

身体は動くことを忘れ

叫びたい

叫んでいる

のに

もどかしいまま

時は止まった

身体いっぱい蓄積された記憶や情感  
語りつくせないものたち  
触れてきた手のひらも頬も  
懐かしいオーデコロンの揺らぎも  
ファンデーションの微香も  
この耳に残っている笑い声も  
一番大切な心さえも

そして

あなたの存在  
も

私の存在  
も

電流が遮断されたように

一瞬で

無  
になった

のか

ぽつり

白紙の上に

句点が残った

まるくなぞれば

終点が

始点に生まれ変わり

また同じような

弧を描いた句点が

まんまるく

どこかしこに

現れるのだろうか

## 初めての奥穂高岳（一）

片津 森

三年前の秋、蝶ヶ岳山頂から真向いに見えたものは、鋸の歯のような稜線や荒々しい山巒をもつ穂高連峰だった。そして、右遠方に視線を移した先に槍ヶ岳があった。灰褐色で、端然としていて、ひとり尖端を空に向けている。これは来年にでも槍ヶ岳は無理としてもせめて奥穂には行きたいものだと思った。しかし、翌年、その次の年とあつという間に見送つてしまつていた。

そして、ようやくその機会がきた。コースは上高地から横尾、涸沢、奥穂高山荘を経て奥穂山頂に着く。標高差は約一七〇〇メートル。そこを二日間で往復する。コース上に数か所の山小屋があり、登山の難度はさほど高くはないというから、自分のように初めて奥

穂高岳へ行く者には打つてつけの山と思った。

二週間ほど前からネットの天気予報サイトで山頂の予報を見てきた。結果、八月も押し迫つたこの三日間が雨の心配がなさそうだった。

### ■一日目

早朝自宅を発ち、松本市内に入ったのは午後三時半を過ぎていた。

宿は、松本工業高校近くにあった。ネットでは宿の名前の下に「ドミトリールーム二段ベッド」と書かれていた。ドミトリールームは寄宿舎、共同寝室の意味のようだが、宿泊施設としてはユースホテルや民宿、山小屋などで相部屋を前提とした部屋のことだという。この宿は二段ベッドが一室に三組あり、男女別のシャワールーム内にトイレがある。料金が安いので利用客の主体は若者のようだ。日本人のほかに欧米系の若者二人組やインド系の顔立ちの若者もいた。外で晩飯を済ませてから帰ると談話室でおしゃべりをしていたようだが、彼らが寝室に入ってきたのが午後十時。間もなく彼らのいびきが始まった。明日の登山を控えた身には、



気懸りな夜だった。そして、とうとう一睡もなく朝を迎えた。

## ■二日目

六時前に宿を出発し、沢渡に向けて野麦街道を西へ走る。沢渡には、マイカー用の駐車場があり、上高地行きのシャトルバスに乗り換える発着場になっている。

上高地行きのバス停に向かおうとした時、そこに居合わせた人が私と他に二人の客を見つけ、上高地まで相乗りして行こうと持ちかけてきた。バスよりも若干安く、早く着けるといっているのでこれに乗ることになった。同乗したのは三重と滋賀の人たちで、関西弁の人は、自分は伊賀忍者の国の出だと言い、滋賀の人を甲賀忍者の国だが、伊賀の方が強い、などとジョークを繰り出している。やはり関西人だ、口達者だなあと感心した。

滋賀の人は話の流れに逆らうことなく、やんわりと受け止めていた。かしこいもんだ。多分七〇代の三重の人は、冬山もやるようで、山にも地理にも詳しい

ようだった。今日は上高地側から登って蝶ヶ岳や常念などの縦走をやる話だった。私が秋田から来たのと驚き、秋田駒ヶ岳とか森吉山とかあるのに何でわざわざこつちまで、というので、たまには高い山に登りたくなって、というところとホウと頷いていた。運転手は通りかかった風景の説明をしてくれている。

上高地バスターミナルで下車した。インフォメーションセンターでは、クマの目撃情報があるという張り紙を見つけた。三年前、蝶ヶ岳登山口にも注意喚起の看板があったことを思い出した。

河童橋に着くと、皆が見ている方向に奥穂高岳があった。写真でみたのと同じ姿。あそこまで行くのだとしばし山を眺めた。それから梓川の左岸を歩いた。これは通称横尾街道というのだそうだ。この路が、かつて播隆上人が槍ヶ岳を目指して歩いた路なのだろう。広めの路は散策路の雰囲気。これから行く人下山の人、挨拶する人黙って通過する人さまざま。明神で休憩し、徳澤で水を補給し、昼前に横尾山荘に着いた。ここでの休憩時間中に、出発時の遅れは挽回できた。食堂で山菜うどんを食べ、のんびりと休憩をとってか

ら横尾山荘を出発した。

山荘の目の前にある吊り橋（横尾大橋）を渡ると看板があつて、ここから登山域に入る、と書かれていた。たしかに横尾までの路とはちがい、路は細く、左右の高い針葉樹林の足元付近で灌木や草が路に迫つて、奥へと続いている。やがて左の樹間に高くそびえる岩壁が現れる。屏風岩だ。恐ろしいくらいに高く、切り立った壁面を眺めながら、林間のアップダウンの比較的不い路を淡々と進んだ。

本谷橋ほんたにばしから路は岩だらけになつて斜度を増す。斜面になつているガレ場を路が横切つていた。数か所に、落石の恐れがあるので立ち止まらずにさつさと通るよゝに促す看板があつた。周りが開けて路が涸沢の流れの近くに沿つてゐる辺りで、ふと上を見上げると灌木帯の上にわずかに建物の屋根らしきものが見えた。よく見ると、赤い幟が細くなびいてゐた。涸沢ヒユツテだと分かつた。

\*

午後三時半に涸沢ヒユツテに到着した。受付で指定された寢床は二階の一区画で、先着者が一人、やが

てもう一人が入つてきて、「満床」になつた。敷かれた三枚の布団の間に隙間などないので、ただ体や持ち物が隣に干渉しないように気をつける。ザックを開いて着替えたり、邪魔なストックをザックの中に入れる。財布はザックからウエストバッグに移す。明日の行動食は潰れないようにザックに入れなおす。夜のトイレのために懐中電灯はすぐ取り出せるようにする。水は明日忘れずに補充する。今日の通過時刻などのメモを讀んで書き加える。トイレや洗面所の場所を確かめる。

そんなことをし終えてから、展望デッキの売店で生ビールとおでんのセットを注文し、遙か前方の常念山脈のなだらかな稜線の方に向かつて座つた。近くの人に尋ねると蝶ヶ岳と常念岳は手前の山（前穂高岳からあの屏風岩に連なる尾根）が邪魔をして見えない、あれは大天井おてんしやうだけ岳から常念へ向かう稜線ではないかということだつた。常念岳にいま自分がいても、まだ互いに見えないのだななどとおかしなことを思つた。

そのときふと、長野県・霧ヶ峰で昭和半ばに小屋を創設した手塚宗求てづかむねもとという人の本※の中にあつた話を思い出した。乗鞍岳山頂付近の山小屋で働く友人が山

を下りて実家へ還るといので、手紙で示し合つて今度の晴れた夜の九時に、霧ヶ峰と乗鞍で同時に火を焚こうというものだった。霧や雨などのせいで数日待たされたある夕刻、ようやく空が晴れた。段ボールや廃材を集め、約束どおりに着火した。やがて炎が十分に大きくなってから、遙か西の乗鞍の方をみるとあちらの方にも小さな灯が認められた。著者は感激のあまり燃え上がる火を持ち上げた……。友の新たな出発を祝う二人だけのイベント。映画の一シーンのような情景を、遠い向こうの常念山脈に重ね合わせた。

夕飯は五時半から。コロツケや煮魚、ポテトサラダ、ほかに皿があつて、ついさつきビールとおでんを入れた腹からは溢れてしまいそうなポリウムだった。隣の人は和歌山から来たといい、周囲の人たちを指して、来月、皆と秋田駒に行くのだという。向かいの男性は槍ヶ岳から北穂、澗沢岳、奥穂を回ってきてここで泊り、明日は上高地に下るのだそうだ。以前、上高地から剣岳へのかなり長い縦走もやったことがあるというから、相当な健脚の持ち主だった。

布団では昨晚一睡もできなかったせいだらう、今

日の疲れもあつてぐっすり眠れた。ただ、いびきをかいて隣の人たちの邪魔にならなかつたらうか。

山日記（平成二九年八月）から

※「新編 邂逅の山」（一九九一年 恒文社）。著者（故人）は昭和三十一年に二五歳の若さで霧ヶ峰に山小屋を創設した。この話に出てくる霧ヶ峰と乗鞍岳は直線距離で約六〇キロ離れている。

## 水田とツバメ（一〇）

佐藤 ただし

### ・ツバメの巣作り

三月二十九日 予報では雨の天気の外れ、少し赤みを帯びた空を家の二階の窓から眺めていると、翼をひらひらさせて飛んでいる鳥の姿があつた。間もなくツバメが一羽電線に止まり、羽繕いを始めた。例年であれば四月に入ってから見かけるのだが、今年はいつもの年より少し早いような気がした。（注一）

毎年のことだが、よくここまで飛んで来たものだと感心する。長い旅にもかかわらず、疲れた様子も見せず家の周りを飛び回り、これからペアを見つけ、巣作りをして子供を育てるのだろう。早速、家の作業小屋の戸を開け、ツバメが入ってこられるようにした。

丁度この頃、イネの種を水に漬け、稲作作業が始まる。

四月二日 近所のSさんの作業小屋でイネの種播きをした。昨年までは家族や親類、知人などに来てもらい、五、六名で種播きをしていたが、今年は六軒で構成する農事組合法人の作業に加わせてもらい、共同作業をすることにした。Sさんの作業小屋に集まったメンバーは総勢一二名。法人の構成員やその家族が殆どだ。人が集まりやすい日曜や会社の休日を利用し、四日間で約五千枚の種播きをする。

種播き機はコンベア式で一本のラインになっている。縦三〇センチ横六〇センチの樹脂製の空の苗箱を種播き機の端にセットすると苗箱はコンベアの上を流れてゆき、最初に床土が苗箱に入り、均一の高さに均される。次はシャワー状に水が掛けられ、その次は種が播かれる。その後、いもち病の薬剤が散布されて最後は覆土が掛けられ出来上がりだ。苗箱は次々と流れてゆき、一分間に四枚の速さで出来てゆく。

出来上がった苗箱は軽トラックに積んでビニールハウスに運び、中央の通路を残して、左右に並べてゆく。

並べ終わると保温と保温、遮熱を兼ねたシートを一枚ずつ掛けておく。この後、一ヶ月位ビニールハウスの中で苗を育てる。

普段は作業小屋の戸を閉めているSさんの作業小屋だが、この日は朝から戸を開け放ち、作業に携わる人たちが出入りしている。

Sさんの作業小屋の周りは畑や田んぼが広がっているせいか、ツバメが引つ切り無しに出たり入ったりして、天井の一角に巣を作っている。その巣は床から三メートル位の高さのところであり、途中まで作られていたものを、この二羽のツバメが自分たちで使うつもりのような。巣の近くで私達が作業をしていることなどお構いなしに作業小屋を行き来している。

巣の中に入っているツバメを見ると、土をくわえてきたのか嘴の周りは厚さ三ミリ位の泥で覆われている。ちよつと不思議な顔だ。その泥の付いた嘴を巣の縁にこすり付けて積み上げているようだ。そこへもう一羽のツバメがやって来て、巣のそばに止まった。こちらは長さ一〇センチ位の細い枯草をくわえている。この枯草は道路の縁や萱野でよく見かけるもので、ツ

バメはこの枯草と泥で、巣を崩れないよう作っているようだ。

ただ残念なことだが、この作業小屋は民家から離れていて、戸を開けておけないため、作業が終わるとツバメは外に出されてしまう。可哀想だがこのツバメのペアは他の場所を探すことになる。

ツバメは繁殖のために数千キロの旅をしてこの地にやって来る。そしてここでせつせと巣を作り、ヒナを育て、また越冬地に帰ってゆく。その生涯は殆ど次の世代のためにあるといってもよい。

翻って自分の日常を考えてみると、農作業にしても何にしても自分がしていることを次の世代に伝えているとは言えない。

水田に関しては、県の農業公社が作った、農地中間管理機構に土地を全て委託している。その機構から当地で作った農業法人が土地を受託して作業をしている形だ。そのメリットは種播き作業のように共同で作業を行うことで、家族内の高齢化や人手不足を補い、また、農機具や肥料、農薬なども法人で購入し、各人の負担を軽減している。

こうした取り組みにより、働き手の高齢化や担い手不足といった労働力の問題をカバーし、採算に合わない高価な農機具の購入といった問題に対応はしているが、こうした組織を維持してゆく人をどうするかという問題については、まだ先を見通すことができないでいる。

五月下旬 種播き作業からひと月が経ち、耕起して顔を出した田んぼに水が入り、水田となった田んぼにイネの苗が植えられてゆく。巣の中で育てられたツバメのヒナは親鳥とともに自由に空を飛び回っている。その姿を見ると、自然の中で人が作った水田や建物を利用して巣作りするツバメと人の関係がどのような形で続いてゆくのだろうか。高い空を飛ぶツバメには何が見えるだろうか。

横山 仁

12号が出されるころ、森友問題というフェイクニュースがどういう結末になっているか分からないが、財務省解体、消費増税凍結に終わればいいと思っっている次第。(マレーシアのマハティール首相は、6月1日から消費税廃止で6%が0%に。やったね。また、「[東京 31日 ロイター] - 自民党の若手議員が31日、当面の消費増税凍結や基礎的財政収支（プライマリーバランス）目標の撤廃などを柱とする大規模な財政拡張政策を主張した提言をまとめ、西村康稔官房副長官に手渡した。9月の自民党総裁選を唱えるなかで異色の内容。ただ、首相官邸内には今回の提言を歓迎する向きもあるとされ、今後議論を呼びそ

うだ。」アホ野党は、なにをやっているのかね。18連休で遊び呆けて。)

しかし、このフェイクがあったことで、自民党の和田政宗氏、杉田水脈氏、日本維新の会の足立康史氏などという政治家をすることができた (YouTube「報道特注」、「日本の病巣を斬る！」など参照)。とくに、和田議員の質疑で野党が財務省を応援しようなことは、傑作だった (YouTube でみることができると)。

このことについて、「もりちゃん」さんはかいている。(twitter)

(引用開始)

いくらアベ憎しとは言え、まさか日本のアホ左翼が財務省の味方になる日が来るとは夢にも思わなかった。本来、一番敵対するべき相手でしょ。少なくとも今の財務省は労働者と対峙する存在。今の左翼は本来の思想を簡単に捨てる。もはやインテオロギーとすら呼べるのかも知れない。2018年3月20日

(引用終わり)

前号でも紹介した「国の借金」というフエイクに関して、もう一巻、「もりちゃん」さん。

(引用開始)

(NHK ニュースの「国の借金 過去最大に 国民1人当たり約 860 万円」という記事：

<https://www3.nhk.or.jp/news/html/20180511/k10011434321000.html>について)

出たよ緊縮バカのNHK。政府債務から政府資産を引くと約100兆円。これが日本の実質の債務ね。もう財政再建終わってるんだよ。こんなクソ報道ばかりするならクソ高い受信料返して欲しいわ。

この記事の何が酷いかと言えばまずバランスシート  
の概念がない。統合政府の概念もない。そして大事な  
のは国の借金ではなく政府債務。もっと言えば国民は  
借金してる側じゃなく政府に金を貸してる立場。も  
う全部クソなのよ。つまり緊縮派はもうクソをつかな  
いと立ちいかなくなるほど詰んでるの。5月12日。

(引用終わり)

ついでに、もうひとつのフエイクニュースの加計問題については、城之内みな、さんのツイッター。

(引用開始)

(5月10日)「首相案件だ。認可に不正があった疑いがある」と騒いでいる急先鋒が、獣医師会から献金を貰った政治家。つまり斡旋利得処罰法に抵触する可能性がある方々。

(5月11日)この加計問題について獣医師連盟から献金も貰った政治家だけが、証人喚問の対象になっ  
ていないのが実に不思議ね。

- 玉木雄一郎 100万円 2012年12月7日
  - 福山哲郎 100万円 2010年8月31日
  - 芝博一 100万円 2010年8月31日
  - 石破茂 100万円 2012年12月27日
  - 逢坂誠二 10万円 2014年12月4日
- (引用終わり)

「Sunrise」さんのツイッター（2018年5月16日）。

（引用開始）

Q 「1校にしると圧力掛けたのは？」

京都府副知事 「山本大臣には言われてない」

山本前大臣 「獣医師会」

京都代表の西田議員 「獣医師会」

加戸前愛媛県知事 「獣医師会」

中村現愛媛県知事 「獣医師会」

八田特区WG座長 「獣医師会」

野党とマスコミ 「安倍総理だあ——！！」

う〜んこの

（引用終わり）

\* \* \*

前に上げた政治家の和田・杉田・足立、また、「もりちゃん」は、まあウヨクであり、それについては？だが、これについて mespesado さんは、いう（「放知技」2018/04/28）。

（引用開始）

内田さんや想田さんも相変わらずだったんですか…。サヨクな人は全員が全員見事に判を押ししたように同じことばかり言ってるので数人のツイート見て馬鹿らしいからそれ以上見るのやめたんですが、やはりw

私はサヨク系は、特に経済について緊縮財政を当然の正義のように主張していてあまりにレベルが低いので、最近では財政緩和を主張する人の方を特によく見に行ってるんですが、それらの人って、逆になぜかウヨクなんですよねw（かつて天然ナントカさんが、私の「サヨクは××だ」論に色をなして「それじゃあウヨクは○○なのか？」と、○○に××の反意語を入れて食ってかかってきましたけど、サヨクとウヨクは互いに反意語なんじゃなくて、共にコンプレックスやルサンチマンが違う方向に出ただけなんですよね）。

(引用終わり)

wは、笑いの意。また mespesado さんは、アアゾンでは4つ星と比較的評価の高い、経済は専門外の弁護士、明石順平著『アベノミクスによるしく』(集英社インターナショナル、2017/10/6)を批判している。「この本はデータを駆使して一見尤もらしいですが、実は著者が引用していない資料を調べると誤りであることがわかる、という典型的な本です。結果、ほとんどすべての内容が誤りである、と言ってもよいくらいです。」そして、これを鵜呑みにして、垂れ流したのが、かの東京新聞の望月衣塑子記者で、ネットで笑いものになっている。どうやら文系は、資料を持ち出されると、そのまま信じ込んでしまうようだ。つていうか、アベノミクスに反対するものなら、なんでも利用してやるうということだろうな。

\* \*

おなじく「放知技」の飯山一郎さん(2018/04/28)。

三島由紀夫については、以前も紹介されていたが、今度の記事では、もう少し踏み込んで紹介する。このことがあり三島は、警察ではなく、自衛隊に期待するようになったという。

(引用開始)

日本人拉致問題には、表面的な情報からは伺い知れない“闇”があります。地獄の釜を覗く覚悟がないと、何も見えてきません。

たとえば、こういう↓↓恐ろしい情報もあります。

> 『三島由紀夫は、能登半島で発生した北朝鮮工作員による日本人拉致事件の現場で石川県警が北朝鮮側に協力している光景を映像で目撃していた』

> それを見た三島は激怒し、その映像を当時の官房長官であった保利茂や石原新太郎などに見せに行つたという。

> しかしながら、その映像を目の当たりにした当時の石原は『見なかったことにする』と三島に言い、そのため石原は当時からあまり拉致問題に関して言及していないと、“情報源”は指摘する。(http://gmba.

jp/more33.html#trr08302)

日本人拉致問題には、北朝鮮が一方的に犯した犯罪である！とは言いい切れない“闇”があるのです。

また、飯山一郎さん (2018/04/29)。

(引用開始)

“日本の拉致問題”は…横田めぐみさんの拉致の理由を探る！←これが最大の問題だ。

しかし！横田めぐみさん以外の拉致については…『拉致などなかった！！』という↓↓強烈な意見がある。

＞拉致被害者は、統一信者または共産主義に憧れた者達で…

＞自由意志で北に渡っただけです。

＞その証拠に拉致の理由が無い。

＞(北朝鮮は)「何の為に老若男女問わず拉致をしたのか？」が全く分からない。

＞特別な技術を持つ日本人を拉致したのならわかりますかね。

＞マスコミと日本政府は拉致の理由として…

＞「日本語を教える為・工作員育成の為・日本情報収集」などと言ってきたが…

＞出鱈目です。

＞なぜなら…

＞日本には在日もいるし…

＞当時は、船も自由に行き来していました。朝鮮総連もありました。

＞北がわざわざ日本人を拉致して工作員に日本語を教える必要もないし…

＞工作員を育成する必要もないし、日本の情報を収集する必要も無かった。

＞実際に在日は日本に居ながら北の家族に電話を出来るし、往來も可能でした。

＞ですから拉致などは無かった！必要なかった！

＞マスコミは、実に馬鹿げた理由を報道し続けています。出鱈目です。

(引用終わり)

同じく、飯山一郎さん (2018/05/15)。

(引用開始)

何も知らないトランプは、日本人拉致問題の解決を、金正恩に強硬に迫るだろう。

そのとき、金正恩が(解決済み！)だけではなく…)  
何と言うか？

「日朝を仲たがいさせるために、CIAが仕組んだのが拉致問題の本質！」な～んてことを、金正恩が言うことはないだろうが…

「横田めぐみさんの“拉致”は、当時の日本政府も絡んだ“事案”だった…」みたいな説明を密談の場で話す可能性は、ある。

その密談内容を、トランプが、ツイッターで、どのように表現するのか？

興味津々(きょうみしんしん)では、ある。

(引用終わり)

\* \*

第十九回の秋田県現代詩人賞が決まった。選考委員は、会長委嘱なので、だれを選ぼうとかまわないのだ

が、ただ、選考委員の一人が「さきかけ詩壇」の投稿者だったことから、おかしいのでは？ という声が聞こえている。

\* \*

「komayumi」36号、須合隆夫さんの詩「能代公園」に、  
火事だ 火事だ どど火事だ  
清助町の ぶだ小屋 火事だ  
とある。

そういえば、小生が保育所どころだったか、近所の豚小屋が火事になったことがあり、その時、似たようなことを歌っていたことを思い出した。

ネットで調べてみると、「定年バンザイ 人生日々挑戦」というブログでは、「火事だ 火事だ どど町だ 新寺町の豚小屋だ 豚のけつつ 丸焼けた」を紹介し、そして、説明として「終戦後間もなく大人も子どもも歌った、伝承歌である。当時、大人から聞いたところによれば、朝鮮人が密造酒を作り、豚小屋に隠していたのをよく警察に摘発されたそうだ。その豚

小屋は、彼らの火の不始末で、火事で焼けることがあったという。」

この説明が正しいとすれば、この歌は戦後のものということになる。

また、別のプログラムでは「動物の歌」として、以下をあげている。

火事じゃ 火事じゃ

どこ火事じゃ

停車場前の豚（ぶた） 小屋じゃ

豚のけち（臀） や 丸焼けじゃ

ゾウゾウ鳴らして走れ

当時、豚のげっちまで歌っていたのかどうか、記憶にはないが、この「動物の歌」では、ほかに、ねずみ、からす、雁、とんび、鱒、こうもりが取り上げられている。

この「火事だ」の歌は、岩波文庫の『わらべうた』『日本唱歌集』『日本民謡集』には、載っていないが、戦後の歌だからか。

「雑記」をみてくれる人が、なにか教えてくれるかもしれないとおもい、紹介した。

\* \* \*

次ページに、高橋洋一（嘉悦大）氏の「添削」をあげておく。5月27日

（引用開始）

「NHKサイトで添削した加計の元記事。どこにいったのかねえ。報道機関は正しく報道しなければいけない。特区は試験に参加するだけで、合否とは無関係。それなのに、合否に関わったように報道しているのは間違い。試験を受ける前に仲間内で盛っても試験合否に無関係」  
（引用終わり）

ちなみに、「盛る」というのは、若者言葉で「誇張する」

①話を大げさに話す

②髪型（髪にポリ）ュームをもたせて頭頂部を大きくす

## NHK報道の間違い

【添削前】 [https://www3.nhk.or.jp/news/special/jyuui\\_gakubu\\_shinsetsu/](https://www3.nhk.or.jp/news/special/jyuui_gakubu_shinsetsu/)

今回、岡山理科大学が獣医学部を新設した愛媛県今治市は平成28（2016）年1月、大胆な規制緩和を進める国家戦略特区に指定されました。同じく国家戦略特区に指定された京都府も京都産業大学に獣医学部を新設することを目指していました。そしてこの年の11月、国家戦略特区の諮問会議で獣医学部の新設が52年ぶりに認められ、平成29（2017）年1月、今治市が事業者を公募したところ、加計学園だけが名乗りを上げ、今治市で新設する方針が決まりました。

### 【添削後】

今回、岡山理科大学が獣医学部を新設希望した愛媛県今治市は平成28（2016）年1月、認可申請できないという異常な事態を認可申請できるという普通の状態にする国家戦略特区に指定されました。同じく国家戦略特区に指定された京都府も京都産業大学に獣医学部を新設の申請することを目指しています。そしてこの年の11月、国家戦略特区の諮問会議で獣医学部の新設の申請が52年ぶりに認められ、平成29（2017）年1月、今治市が事業者を公募したところ、加計学園だけが名乗りを上げ、今治市で新設の申請をする方針が決まりました。なお、京都産業大は準備不足で断念しました。実際の認可は、文科省において検討され、新設が決まったのは文科省の認可がでた11月でした。この認可作業は、文科省関係者のみが関わっています。

## あとがき

◆中古で買った車の走行距離が20万キロちかくなり、また車検もあったので取り替えた。今度のは、キー・フリー・システムとかいうものらしく便利なことがわかったが、最初は、説明書を見ても使い方がよく分からず、エマージェンシー・キーを使ってドアの施錠・解錠をしていた。(J)

◆先日、男鹿線に乗って往復してきた。朝起きてからの思いつきで目的はない。ただ乗っているだけ。終点到着いてから約三十分後、折り返しの電車に乗るのだが、来る時に車内で見た人が三人ほどいた。年齢も同じくらいか。同じことを考えている人がいることに驚いた。因みに、私は鉄道マニアではない。(B)

◆山口県下関から青森県大間町まで、日本海側の2000キロを100日かけて徒歩で縦断中の75歳がいると先月魁紙が紹介していた。秋田市の国道7号線でも、ザックに雨傘を突っ込んだり、ベビーカーに荷物を積んで歩く人をたまに見る。一様に汚く日焼けして。日本のあちこちで同類の挑戦をする人は少ないと思う。こいつはちょっと刺激してくるな。(K)

◆朝方、雨の音を聞くと気持ちが安らぐ。雨の日は体を休めなさいと言っているように聞こえる。湿った空気に体が弛むのか、肩や腕から痛みやしびれが顔を出す。体が痛くなるというのは体の使い方に問題があるということか。それとも単なる老化か。とりあえずはストレッチをすることにする。(T)

「海市」 第12号

2018年6月●日発行

発行 書肆えん

秋田市新屋松美町5-6 横山方

る) やメイク (派手めの化粧) の状態の2つの意味で使われる。」のようだ。  
・すぎやまこういち先生、ナスコミの仕事を暴露。  
「安倍晋三さんのスピーチの時だけ、中音部以下のや

や低音域にちよつとイコライザーをかけつつエコーをつけて、リバーブをつけてモヤモヤと聞こえにくくしている。見てて商売柄、やってるなど。」2017年7月22日(するめのよつちゃん#沖縄は日本だ、より